



中野本郷

令和5年度 4月号

令和5年4月6日

中野区立中野本郷小学校

校長 福山 広伸

児童数 324名

中野本郷小学校の歴史の中での「節目の年」

校長 福山 広伸

お子様のご入学・ご進級、誠におめでとうございます。新しく51名の1年生を迎え、全校児童324名で新年度をスタートしました。

私が昨年度の4月に中野本郷小学校に着任し、右も左もわからない中を、PTAの皆様や地域の皆様の心強いご支援・ご協力をいただき、何とか1年間を務めさせていただきました。改めて皆様にご感謝を申し上げます。ありがとうございました。

コロナの終息も見え始めてきて、教育活動の中での制限も緩和されてきたこの頃です。今後も児童の健康を第一にした判断をしながらも、より活動的な学習活動に取り組んでいけるものと楽しみにしています。

校舎改築に伴い、令和6年度4月から校舎移転となります。長年、地域の皆様に支えられ、愛されてきた現在の校舎も令和5年度の本年度1年限りとなります。

中野本郷小は、地域の方々の多大なるご尽力により昭和3年5月22日に798名の児童で開校いたしました。昭和20年の戦時下においては、東京でも各地で大きな被害を受けた中、3月10日の東京大空襲、特に中野区で被害の大きかった5月25・26日の空襲にも、中野本郷小は被害をまぬがれました。区内の学校では崩壊や焼失被害を受けた所も多く、終戦後は、校舎が使えなくなった塔山小、向台小、中野高等小学校に校舎を貸し出し、しばらくの間は二部制授業をしながら中野本郷小の校舎を一緒に使用したとのことです。

昭和39年から鉄筋校舎への改築工事が4期に渡って行われ、昭和53年の教材園（現グリーンガーデン）、昭和55年の校庭改修を経て、現在の校舎があります。

昭和54年の開校50周年のときには、開校当時より本校に受け継がれてきた『郷の魂（ごうのたましい）』の言葉を記した碑が記念に設置され、今も体育館の前で見ることができます。

この町で暮らす皆様の歴史とともにあった現校舎との最後の1年。中野本郷小の歴史が次の時代へとページがめくられる年となる令和5年度が、子どもたち一人ひとりにとって、充実した思いで深いものとなることを心から願っています。

私などには想像も及ばない未来、グローバルな世界を舞台にして活躍するであろう子どもたちだからこそ、今学ぶべき大切なことは、「人との関わり方」「他者を思いやる心」「協力し助け合う態度」「健康な心と体」さらには「自ら学び、課題解決に取り組む力」であると私は考えています。

本校には、子どもたちがこれらを学び身に付けていくために必要な「豊かに関わり合う学びの場」としての心強い地域の力があります。本年度も教職員一同、保護者・地域の皆様のお力添えを頂きながら、連携を密にし、子どもたち一人ひとりの健全育成に向けて取り組んでまいります。

4月の生活目標 「中野本郷小のよい子」の約束を守ろう

昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策で多くのご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。新年度を迎え、進級の喜びと新たな学年での学校生活への期待に胸を大きくふくらませていることでしょうか。

本校では、学校生活を安全に、規則正しく送れるように「中野本郷小のよい子（みんなにやくそく）」を全校で活用しています。「中野本郷小のよい子（みんなにやくそく）」には、学校生活の様々な場面の約束事が記してあります。ここに記されていることは、児童自身をはじめ、教員、ご家庭三位一体となって取り組むことが大切です。学校生活の様々な場面で、子どもたちにこの約束を守る大切さを教えていきたいと思っております。ご家庭でも、ぜひお子さんと一緒にお読みいただき、確認をしていただくとともに、普段からお声掛けいただきますようお願いいたします。